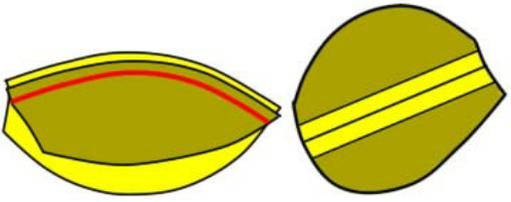
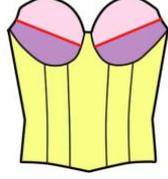
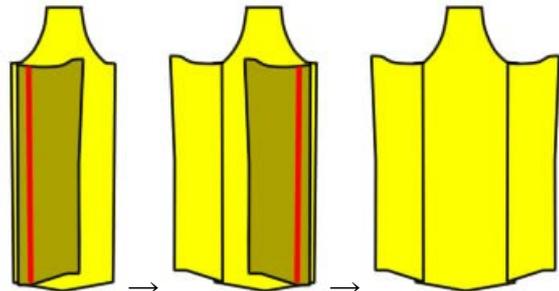
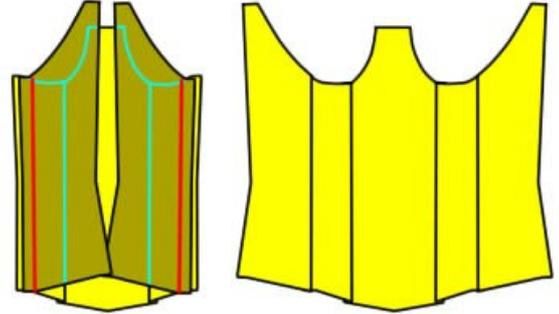
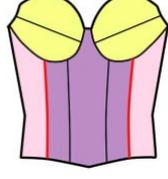
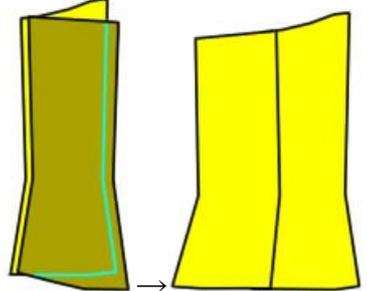
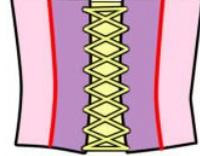
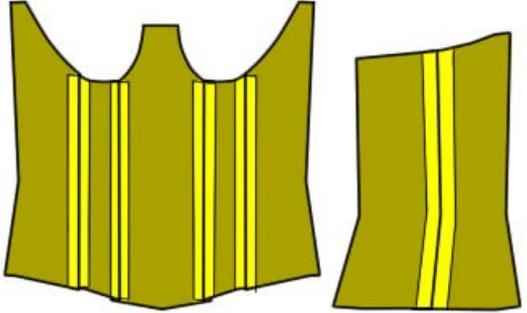
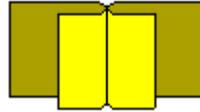
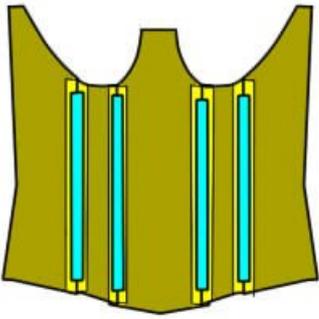


<p>■が裏 ■が表</p>	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをする型紙に指定された場所の裏に接着芯を付けてください。 くわしくは縫う前の下準備を参照 この縫い方では左脇にファスナーがつくつくりになっていますが、右がいい人は左右逆になるように縫ってください</p>
	<p>胸のカップ部分を縫ってください。</p> 
	<p>前中心と前脇1を縫ってください。</p> 
	<p>中心と前脇2を縫ってください</p> 
	<p>後中心と後脇を縫ってください</p> 
	<p>縫い代は左右にアイロンで広げてください。</p> 



ボーンにアイロンで熱接着の両面テープを貼ってください。

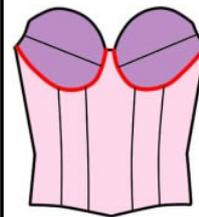
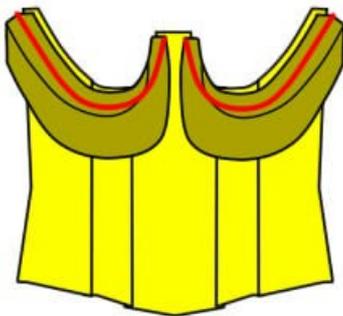
ボーンは縫い付ける所の出来上がりの長さより上下2~5mm短めに切ってください。
(縫い代を折り返す隙間があるので)



縫い代の上にボーンを置いてアイロンで貼り付けてください。

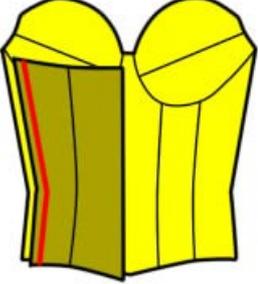
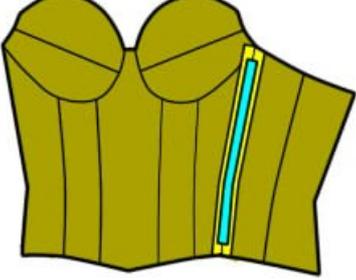
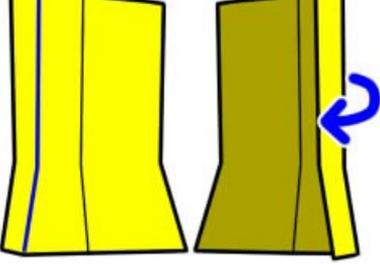
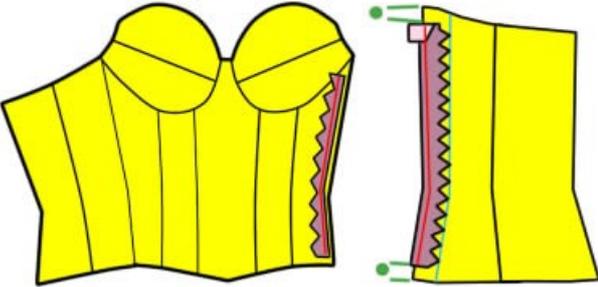
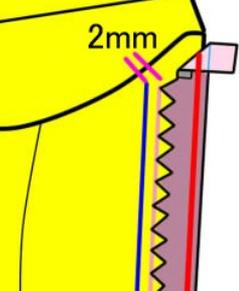


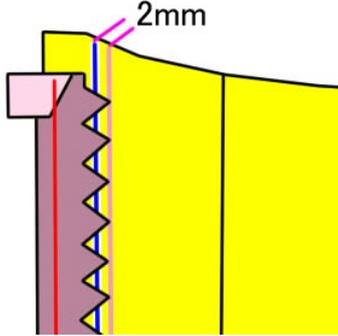
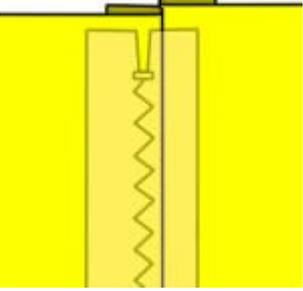
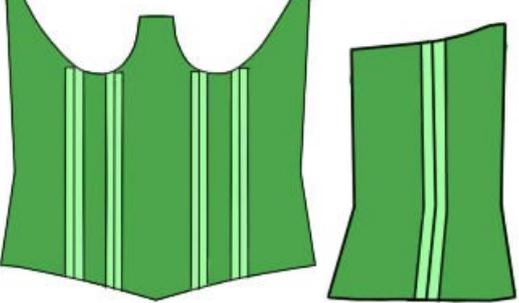
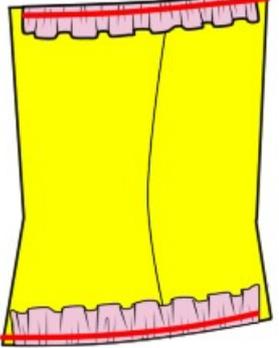
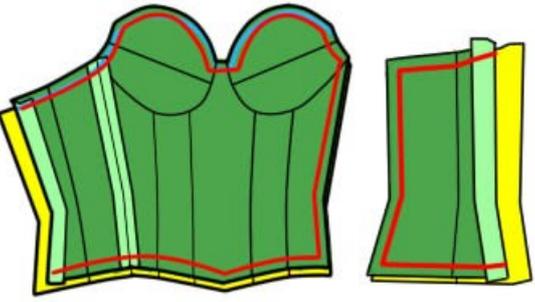
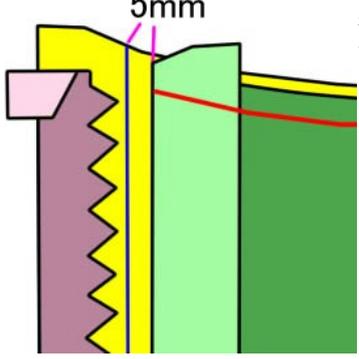
表から縫い目の上をなぞるように縫ってください。コレで目立たず簡単に固定が出来て縫い代もゴロゴロしなかったし凄く簡単でした。ボーンで縫い代が押さえられるので、両方の縫い代を固定の為の押さえ縫いをしなくていいので楽ですよ。

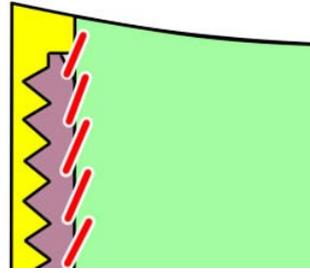
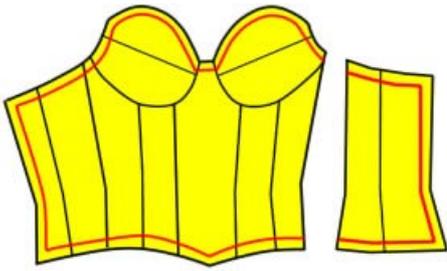


前身ごろとカップを縫ってください。

縫い代は左右に広げてください。

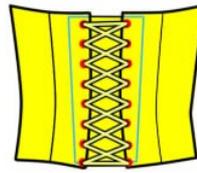
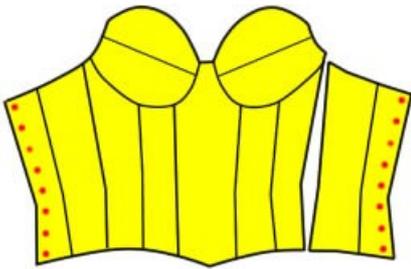
	<p>アイロンで縫い代を上下に折って下さい。</p>
	<p>片脇だけ後身頃を縫ってください。 反対側にはファスナーが付きます</p>
	<p>脇の縫い代を左右に折って、ボーンテープをつけてください</p>
	<p>ファスナーをつける場所の縫い代をアイロンで折って下さい</p>
	<p>脇側にファスナーを、裏を上にして重ねてください。 上下は2cmあけてください。上は生地●の端から、ファスナーの金具●までの距離 熱接着テープを貼ってから固定すると待ち針がない分縫いやすいですよ。</p> <p>●は2cm</p>
	<p>前身頃側のファスナーはアイロンの折り目より2mmほど縫い代側へずらしてください。</p>

	<p>後身頃側のファスナーは折り目よりファスナーを2mmはみ出すように重ねて下さい。</p>  <p>ずらすことでファスナーを隠す事が出来ます。</p>
	<p>裏地を縫ってください。 裏地はしっかりさせる為に、ツイルなどのちよつと厚めの生地を使うと良いです。 縫い方は前と同じです。</p> <p>■が裏。■が表。</p>
	<p>縫い合わせる脇は表と逆側を合わせて下さい。</p> <p>表地とあわせるときにちょうどぴったり合うようになります</p> <p>裏にはボーンはつけません。</p>
	<p>フリルをつけたいときは裏地をつける前に表を上にした表生地にフリルを裏を上にして重ねて下さい。</p>
	 <p>裏地は表地につけたアイロンの折り目より手前5mmで折って下さい。</p>



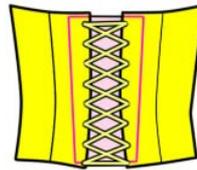
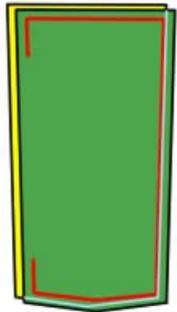
ファスナーの所から表に返してください。ファスナーの所の表地の縫い代を折り目の所から折り、中に入れて下さい。引きつらないように裏地

も折ってください。
この時アイロンで折り目をつけた後、熱接着テープで固定してから手縫いすると綺麗に縫いやすいよ
ファスナーの所をよけて端から5mmの所を縫ってください



ハトメ穴(編み上げを通す穴)をあけてください。
ハトメポンチというものを使用してください。
大体ハトメのパッケージに使い方が描かれています。
初めて使う場合は「**打ち具つき**」を選んでください

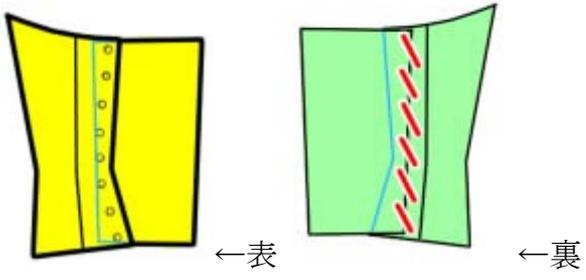
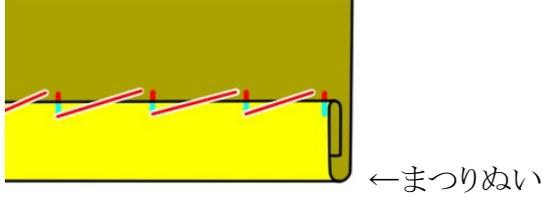
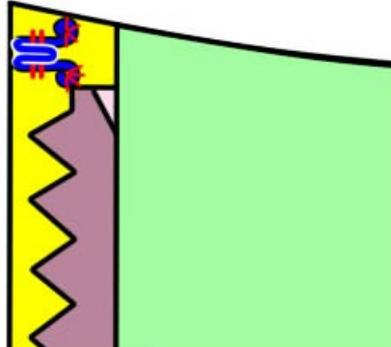
[ハトメのつけ方詳しくはこちら](#)



後中心の持ち出しを作ってください。
2枚の持ち出しを内側が表になるように重ねて縫ってください。
片方の脇をひっくり返すためにあけておきます

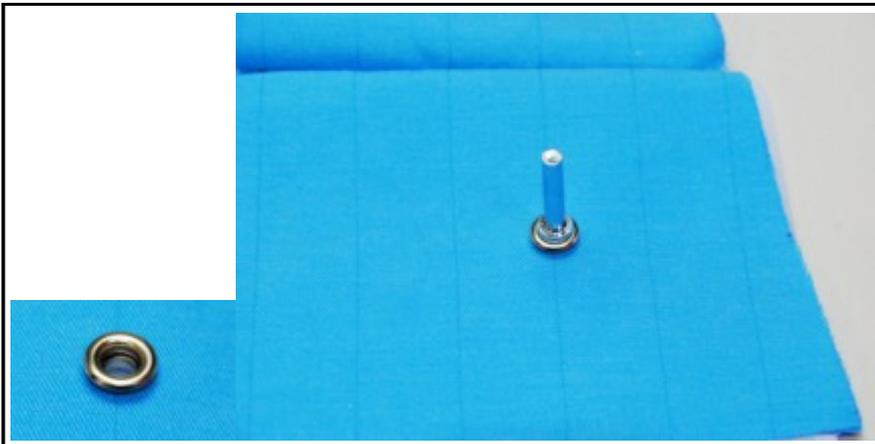


持ち出しを表に返してください。
アイロンで形を整え端から5mmの所を縫ってください

 <p>←表 ←裏</p>	<p>後中心の裏側に<u>持ち出し</u>をまつり縫いする。</p>  <p>←まつりぬい</p> <p>調節できるように持ち出しは片方だけ縫って下さい。 縫い付ける位置は型紙の補助線を参考にしてください。</p>
	<p>スプリングホックを手縫いで縫い付けてください。</p>

ハトメのつけかた

 <p>表用 左が下側 右が上側</p>  <p>裏用 左が上側 右が下側</p>	<p>背が高いほうが裏用、背が低く、マッシュルームのようにフチが内側に丸くなっている方が表用のハトメです。</p> <p>ハトメには片面ハトメと両面ハトメがありますが、洋服用には両面ハトメを使用しましょう。</p> <p>片面ハトメは、工具で無理やり裏側を広げて布に固定するので、ハトメの裏側に生地繊維が引っ掛かりやすく、生地を傷めたり、皮膚を引っかいたりするので、両面の方が安全ですよ。</p>
	<p>裏側用のハトメを、生地裏から表に出します</p>
	<p>上から表用のハトメをかぶせます。</p> <p>きのこの柄の様な部分が下になるように重ねてくださいね。</p>

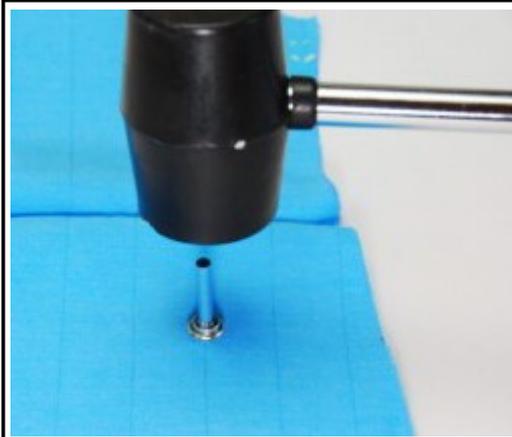


裏返して付属の棒を上へのせます



この時、フローリングやテーブルの上でやると、テーブルなどに傷が入ります。雑誌などだと柔らかすぎてクッションになってしまい、しっかり締まりません。

100円均一等で写真のようなまな板を購入するか、かまぼこ板があれば、かまぼこ板を利用するのもいいですよ。



金づちでたたきます。
写真はプラスチック製ですが、金づちの方が締りがいいそうです。

付属のうち棒が短いので、手を打たないように気を付けて叩いてくださいね

このデザインに適した素材

表布

お好みの色や柄、風合いのものをご使用ください。

ビスチェは小さいので、ジャガードなど織り模様の入ったちょっと高めの生地でも少ない生地で作れるので使用してみるのもいいかもしれません。サテンなどの薄い生地は接着芯+もう一枚綿生地を重ねて2枚1組にして厚みを出すと綺麗に作れます

ポリエステルツイル

化繊なので綿ツイルに比べて軽くしわになりにくいです

初心者にも扱いやすい生地です。

ジャガード

生地の織り方で模様作られた生地です。とても見栄えが良いです。

裏地

綿ツイルなどやや厚みのある生地を使うとよりしっかりします。

一般的な薄い裏地を使うと、ビスチェ自体が薄くなりがちなので綿生地でよいです。

接着芯

布の張りを出す為の素材です。

これをつけることでサテンのような薄い生地でも張りを出すことができます。

アイロンでくっつけます

ライクボーン 6mm

ビスチェが重力に負けてペロンとたれてこないようにするための骨組みとして使うテープです。

Mサイズで210 cm

Lサイズで230 cm必要です

ハトメリング

編上げするとき布に穴を開けただけではどんどん広がってきますので、穴に補強用として金具をつけます。

片面ハトメ（100円均一やホームセンターにある2つ使わないタイプのハトメ）は角がカバーされないのので、布に引っかかったり 肌を傷つけたりするので必ず両面ハトメをお使いください。

紐やリボンの太さにもよりますが細めのリボンなら4mm、太いリボン、紐等の場合は6mm以上のハトメを選ぶといいと思います。

リボン、紐

編上げ用のもの。

サテシリボンは光沢が片面しかないものがあります。

編上げは編上げる時に裏表両面見えますので、両面光沢のあるものをご使用ください。

サテンに限らず裏表の無いものを選ぶのがおすすめです

オープンファスナー

30 cm程度のもの。長いものは切って使えばOKです。

長さは買うときにお店で店員さんに言うと調節してもらえます。

ムシ（レール）の長さをMは27.5、Lは30.6 cmにしてもらってください。